



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月28日

上場会社名 バリューコマース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2491 URL https://www.valuecommerce.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 最高経営責任者 (氏名) 香川 仁
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 遠藤 雅知 TEL 03-6438-6860
 四半期報告書提出予定日 2020年11月11日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	21,168	15.7	4,435	27.0	4,489	28.1	3,067	30.2
2019年12月期第3四半期	18,298	24.7	3,492	33.4	3,503	31.2	2,355	29.8

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 3,081百万円 (27.7%) 2019年12月期第3四半期 2,412百万円 (31.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	94.96	94.87
2019年12月期第3四半期	72.94	72.87

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	19,243	13,444	69.8	416.02
2019年12月期	18,257	11,491	62.9	355.60

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 13,439百万円 2019年12月期 11,485百万円

(注) 2020年12月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2019年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	14.00	—	19.00	33.00
2020年12月期	—	16.00	—	—	—
2020年12月期（予想）	—	—	—	18.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	16.8	5,500	10.7	5,500	10.3	3,600	7.6	111.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	34,471,000株	2019年12月期	34,471,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	2,165,628株	2019年12月期	2,170,779株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	32,301,904株	2019年12月期3Q	32,294,792株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続き、依然として厳しい状況にありました。今後については、政府による経済再生に向けた各種施策により、個人消費がプラスに転じ、さらには景気の持ち直しが期待されているものの、いまなお先行きは不透明な状況が続いております。

こうした環境の下、当社グループは、顧客であるコマース事業者のパフォーマンス（流通総額）を最大化するため、効果的なマーケティングソリューションを提供することに注力した結果、連結経営成績は次のとおりとなりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大について、当第3四半期連結会計期間において第2四半期連結会計期間に受けていたマイナス面の影響が継続するなか、プラス面の影響は減少したものの、前年同四半期比で増収となりました。マイナス面であった、成果報酬型広告「アフィリエイト」について、回復の兆しが徐々に見え始めているものの、旅行や就職、金融の一部分野は、前年同四半期比で減収となりました。プラス面であった、ヤフー株式会社が運営するオンラインモールストア向けサービスについて、外出自粛等で一時的に増加していたEC需要は減少したものの、当該サービス利用の需要は依然高く、前年同四半期比で増収となりました。全体としては、当第3四半期連結会計期間の売上高は第2四半期連結会計期間並みとなりました。

このほか、第1四半期連結会計期間から前連結会計年度以降に連結子会社化したダイナテック株式会社及び株式会社B-SLASH（2020年7月1日付で当社を存続会社として同社を吸収合併）の売上高を計上しました。その結果、21,168,874千円（前年同四半期比15.7%増）となりました。

販売費及び一般管理費は、前述の子会社経費及び株式取得に係るのれん償却費等を計上したことにより、3,925,501千円（前年同四半期比58.1%増）となりました。

営業利益は、全体としては堅調に推移したことにより、4,435,117千円（前年同四半期比27.0%増）となりました。

経常利益は、営業外収益に投資事業組合運用益44,371千円を計上したこと等により、4,489,843千円（前年同四半期比28.1%増）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税等1,423,611千円を計上したこと等により、3,067,529千円（前年同四半期比30.2%増）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

① マーケティングソリューション事業

マーケティングソリューション事業は、コマース事業者のECサイトへの「集客」を軸とするソリューションを提供する事業です。主要なサービスは、成果報酬型広告「アフィリエイト」です。

当第3四半期連結累計期間におきましては、「アフィリエイト」における新型コロナウイルス感染症拡大について、当第3四半期連結会計期間において第2四半期連結会計期間で受けたマイナス面の影響が継続しました。回復の兆しが徐々に見え始めているものの、旅行や就職、金融の一部分野は、前年同四半期比で減収となりました。

この結果、セグメント売上高は11,069,416千円（前年同四半期比14.0%減）、セグメント利益は1,931,258千円（前年同四半期比13.9%減）となりました。

② ECソリューション事業

ECソリューション事業は、コマース事業者のECサイト上での「販売促進」を軸とするソリューションを提供する事業です。主要なサービスは、ヤフー株式会社が運営するオンラインモールストア向けCRMツール「STORE's R∞（ストアーズ・アールエイト）」及びクリック課金型広告「ストアマッチ」です。

そのほか、前連結会計年度以降、当社が全株式を取得し連結子会社化した次の2社を含みます。

・ダイナテック株式会社（宿泊施設向けに情報システムを開発・提供）

2019年12月期第4四半期連結会計期間から、同社の損益及び同社株式取得に係るのれん償却費等を計上しております。

・株式会社B-SLASH（コマース事業者向けにEC運営に必要なソリューションを提供）

第1四半期連結会計期間から、同社の損益及び同社株式取得に係るのれん償却費等を計上しております。

なお、当社は、2020年7月1日付で、当社を存続会社、同社を消滅会社とする吸収合併（簡易合併・略式合併）を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、ヤフー株式会社が運営するオンラインモールのストア向けサービスにおいて、ヤフー株式会社との協業による営業施策に取り組んだことで、ストアのサービス利用が増加しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、同オンラインモールのストア向けサービスにおいては、第2四半期連結会計期間において外出自粛等で一時的に増加していたEC需要は、当第3四半期連結会計期間では減少したものの、当該サービス利用の需要は依然高く、前年同四半期比で増収となりました。宿泊施設を顧客とするダイナテック株式会社においては、休館・閉館、開業の延期の影響を受けました。

この結果、セグメント売上高は10,099,458千円（前年同四半期比85.8%増）、セグメント利益は3,483,309千円（前年同四半期比61.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

1. 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は19,243,062千円となり、前連結会計年度末と比べて985,579千円増加いたしました。

流動資産は13,949,731千円となり、前連結会計年度末と比べて477,205千円増加いたしました。これは、主に受取手形及び売掛金が797,280千円減少したものの、現金及び預金が1,207,688千円増加したことによるものです。

固定資産は5,293,330千円となり、前連結会計年度末と比べて508,373千円増加いたしました。これは、主にソフトウェアが138,078千円、ソフトウェア仮勘定が247,824千円、顧客関連資産が152,799千円増加したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は5,798,232千円となり、前連結会計年度末と比べて967,329千円減少いたしました。

流動負債は5,491,116千円となり、前連結会計年度末と比べて946,529千円減少いたしました。これは、主に買掛金が571,269千円、未払金が415,539千円減少したことによるものです。

固定負債は307,116千円となり、前連結会計年度末と比べて20,800千円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は13,444,829千円となり、前連結会計年度末と比べて1,952,908千円増加いたしました。これは、主に利益剰余金が剰余金の配当により1,130,542千円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により3,067,529千円増加したことによるものです。

なお、2019年9月27日に行われたダイナテック株式会社との企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定したため、前連結会計年度との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いています。

2. キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は9,070,600千円となり、前連結会計年度末と比べて1,207,688千円増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は3,432,657千円（前年同四半期は2,464,816千円の獲得）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益が4,491,141千円であり、プラス要因として、減価償却費が512,766千円、のれん償却額が221,402千円、売上債権の減少額が797,280千円であったものの、マイナス要因として、仕入債務の減少額が571,269千円、未払金の減少額が412,983千円、法人税等の支払額が1,707,598千円であったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,099,313千円(前年同四半期は2,854,734千円の使用)となりました。これは、主に無形固定資産の取得による支出が589,179千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が537,032千円であったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,125,656千円(前年同四半期は1,019,898千円の使用)となりました。これは、主に配当金の支払額が1,125,045千円であったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年1月29日の「2019年12月期 決算短信」で公表いたしました2020年12月期の連結業績予想に変更はありません。

第4四半期連結会計期間は、「アフィリエイト」の旅行や就職など一部分野で減収を見込んでおりますが、ECの需要が増加している分野もあり、全体として通期業績目標の達成に向けて尽力する方針です。

今後、業績予想の修正が必要となった場合には、直ちに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,862,912	9,070,600
受取手形及び売掛金	4,290,931	3,493,650
未収入金	1,172,858	1,183,569
その他	161,466	209,336
貸倒引当金	△15,642	△7,425
流動資産合計	13,472,525	13,949,731
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	184,923	187,830
工具、器具及び備品（純額）	156,582	113,222
リース資産（純額）	7,731	16,133
有形固定資産合計	349,237	317,185
無形固定資産		
ソフトウェア	847,031	985,110
ソフトウェア仮勘定	1,010,539	1,258,363
のれん	733,836	772,510
顧客関連資産	846,450	999,249
その他	11,010	10,518
無形固定資産合計	3,448,868	4,025,753
投資その他の資産		
投資有価証券	544,822	539,427
差入保証金	311,369	319,612
繰延税金資産	106,026	69,485
その他	25,626	24,880
貸倒引当金	△993	△3,014
投資その他の資産合計	986,850	950,391
固定資産合計	4,784,956	5,293,330
資産合計	18,257,482	19,243,062

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,622,733	2,051,464
未払金	2,278,599	1,863,059
未払法人税等	1,063,905	848,674
賞与引当金	19,075	126,585
その他	453,330	601,331
流動負債合計	6,437,645	5,491,116
固定負債		
繰延税金負債	245,909	198,488
その他	82,006	108,627
固定負債合計	327,916	307,116
負債合計	6,765,561	5,798,232
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,728,266	1,728,266
資本剰余金	1,162,922	1,164,876
利益剰余金	8,976,301	10,913,289
自己株式	△530,161	△528,996
株主資本合計	11,337,329	13,277,436
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	148,497	162,116
その他の包括利益累計額合計	148,497	162,116
新株予約権	6,093	5,276
純資産合計	11,491,920	13,444,829
負債純資産合計	18,257,482	19,243,062

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	18,298,923	21,168,874
売上原価	12,323,905	12,808,255
売上総利益	5,975,017	8,360,618
販売費及び一般管理費	2,482,847	3,925,501
営業利益	3,492,169	4,435,117
営業外収益		
アフィリエイト報酬精算益	2,773	4,914
投資事業組合運用益	6,388	44,371
その他	3,951	7,675
営業外収益合計	13,112	56,961
営業外費用		
為替差損	1,009	81
その他	536	2,153
営業外費用合計	1,545	2,234
経常利益	3,503,736	4,489,843
特別利益		
子会社清算益	—	4,767
特別利益合計	—	4,767
特別損失		
減損損失	7,890	—
システム障害対応費用	42,959	3,470
特別損失合計	50,849	3,470
税金等調整前四半期純利益	3,452,887	4,491,141
法人税、住民税及び事業税	1,058,217	1,557,071
法人税等調整額	38,982	△133,459
法人税等合計	1,097,200	1,423,611
四半期純利益	2,355,687	3,067,529
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,355,687	3,067,529
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56,330	13,618
その他の包括利益合計	56,330	13,618
四半期包括利益	2,412,018	3,081,148
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,412,018	3,081,148
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,452,887	4,491,141
減価償却費	197,271	512,766
のれん償却額	84,260	221,402
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12,094	△6,196
子会社清算損益(△は益)	—	△4,767
受取利息	△132	△112
支払利息	—	103
為替差損益(△は益)	177	—
投資事業組合運用損益(△は益)	△6,388	△44,371
減損損失	7,890	—
システム障害対応費用	42,959	3,470
売上債権の増減額(△は増加)	308,070	797,280
仕入債務の増減額(△は減少)	△177,399	△571,269
未収入金の増減額(△は増加)	△48,488	△53,342
未払金の増減額(△は減少)	△76,040	△412,983
その他	38,333	207,277
小計	3,811,308	5,140,397
利息の受取額	132	112
利息の支払額	—	△103
システム障害対応費用の支払額	△32,773	△150
法人税等の支払額	△1,313,850	△1,707,598
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,464,816	3,432,657
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△67,125	△39,122
無形固定資産の取得による支出	△139,483	△589,179
投資有価証券の取得による支出	△33,090	△33,381
子会社の清算による収入	—	14,767
投資事業組合からの分配による収入	25,881	92,776
差入保証金の回収による収入	—	73
差入保証金の差入による支出	—	△8,216
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△2,640,918	△537,032
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,854,734	△1,099,313
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の処分による収入	6,945	2,407
自己株式の取得による支出	△89	△104
配当金の支払額	△1,026,753	△1,125,045
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△2,913
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,019,898	△1,125,656
現金及び現金同等物に係る換算差額	△177	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,409,993	1,207,688
現金及び現金同等物の期首残高	7,978,055	7,862,912
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,568,061	9,070,600

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I. 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額 (注) 2、3
	マーケティングソリューション事業	ECソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,863,947	5,434,975	18,298,923	—	18,298,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,863,947	5,434,975	18,298,923	—	18,298,923
セグメント利益	2,244,206	2,152,637	4,396,844	△904,674	3,492,169

(注) 1. セグメント利益の調整額△904,674千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 「ECソリューション事業」につきましては、ダイナテック株式会社を2019年9月27日付で完全子会社化し連結の範囲に含めましたが、みなし取得日を2019年9月30日とし、当第3四半期連結累計期間は、当該子会社の四半期貸借対照表のみを連結しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、ダイナテック株式会社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「ECソリューション事業」において、3,340,831千円増加しております。

なお、当該セグメント資産の金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映された後の金額により開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、ダイナテック株式会社を連結の範囲に含めたことにより、「ECソリューション事業」におけるのれんが654,198千円増加しております。

なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映された後の金額により開示しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注) 2
	マーケティ ングソリュー ション事業	ECソリュー ション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,069,416	10,099,458	21,168,874	—	21,168,874
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	11,069,416	10,099,458	21,168,874	—	21,168,874
セグメント利益	1,931,258	3,483,309	5,414,567	△979,450	4,435,117

(注) 1. セグメント利益の調整額△979,450千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、株式会社B-SLASHを連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「ECソリューション事業」において、676,186千円増加しております。なお、当第3四半期連結会計期間において、当社を存続会社とし、同社を消滅会社とする吸収合併を行っており、一部の資産は全社資産への振替を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。